

2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/10/13

団体名	はまどおり大学	活動タイトル	サロンから繋がる、不登校・ひきこもり・3. 11被災の子どもとその親への支援	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景	
● 地域の望ましい社会状況(ビジョン)	当団体の実現したいビジョンは「経済状況や、障がいのある無にかかわらず、多様なひとりひとりが大切にされ尊重され、誰もが暮らしやすい社会」である。年齢、経済状況、障がいがあるないに関わらず、ひとりひとりの人権や価値観の違い、特性を受け入れてもらえる場が増え、その場に関わる団体や大人が増えている地域をめざす。		<div data-bbox="1514 432 1666 507" data-label="Text"> <p>サロンにて、不登校についてや他校の事例を聞く様子</p> </div> 	
● 団体の社会的役割 (ミッション)	当団体の社会的役割（ミッション）は、「様々な視点から気づきを得ながら、自分に潜む可能性を引き出す学びや場を提供」を行うことである。具体的には、以下のような取組を行う。 1) 人材育成、関わる仲間を増やす 2) 勉強会によって、知識や理解を広める 3) 各団体や個人が活動を行う場づくりの推進			
● 団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人材育成：課題を知り、学び、主体的に関わって活動する人を増やす</li> <li>● 物的資源：サロンや学習支援ができるスペースが、地域理解のある協賛企業からの協力や寄付で開催を増やせるネットワークを構築する</li> <li>● 活動資金：資金収入源となるような事業拡大をする</li> <li>● ナレッジ：勉強会事業の中で培ったノウハウをサロン事業に活かし、スタッフのスキル向上のサイクルを確立する</li> </ul>			
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
<p>① 不登校・引きこもりの子を対象に学習支援を実施 不登校から引きこもりになってしまった子どもたちへ、引き出し支援から学習支援、居場所、食事の支援を実施。チラシの配布やSNSでのライブ配信で周知活動を行った。</p> <p>② 東日本大震災被災・令和元年台風19号で被災した子どもを対象に、心のケア（PTSD）のためのカウンセリングの強化を実施 不登校や引きこもりになったカウンセリングを必要としている子へ、スクールカウンセラーが対応。専門の医療機関や自立支援に繋げるなどの支援も並行した。</p> <p>③ 子育てに不安を抱えた親を対象にサロンを開催 一般に参加者を募集し、同じ悩みを持つ人とつながることで安心できる居場所づくりを実施すると共に、スタッフメンバー間での共有を行う報告会を行った。また、このサロンの参加者が主体的に関与したイベントを開催するようになった。</p> <p>④ 団体のメンバーへ支援活動に対する勉強会の開催 活動基盤の強化として、子どもの人権を行政と民間など支援者の視点でどうかかわるのかなどを軸に団体メンバー向けに勉強会を開催。</p>		<p>【年間実績】</p> <p>①「学習支援」251回実施、のべ参加人数691人 9人中5人が現在も利用。また5人中4人が「家から一歩も出ない」「1人で外出できない」状況から「ほかの利用児と話せる」段階へ。 ②「カウンセリング」60回実施、のべ参加人数 60人 3人中1人は外出が可能となり、卒業となった。1人は外出が難しく、カウンセリングが中断されている。1人は継続しての利用ができており、自立訓練に繋げている。 ③「サロン」4回実施、のべ参加人数44人 サロン開催後のアンケート集計結果、満足度が5段階中4もしくは5の割合が85%。また、「話しやすい会でしたし、不登校の悩みを話すだけでなく、実現するための話しがされていた事がうれしく思いました」「前回の会に参加後、教育センターへ相談に行けた」などの感想が聞かれた。 ④「勉強会の活発化」 定期的に勉強会を開催できた他、勉強会運営に関わるスタッフを2名増員。</p>		
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題		■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）
<p>・子育てに不安を抱えた親を対象にサロンを開催 同じ悩みを持つ保護者や子どもたちを繋げることで、エンパワメントを促すきっかけとする流れを定型化できた。</p> <p>・NPO法人化の方法</p> <p>・Peatixでの集客、チケット販売と管理</p> <p>手作業で行っていた参加者数の把握やリマインドの一斉連絡を、システムで管理することで事務スタッフの負担を軽減することができた。関連して、事務作業を可視化することで、いろいろなスタッフに分散されていた作業内容がまとまり、人を選ばずにイベントの管理が可能となった。</p> <p>・過去の勉強会をアーカイブで残す</p> <p>Youtubeに団体スタッフ専用でアーカイブを残すことで、新しく入ったスタッフが過去の勉強会の内容を学ぶことが難しくなった部分が解消された。</p>		<p>・学校や先生のあり方が現代の子どもたちの状況に合っておらず、安心できる場として機能していない</p> <p>・多様な人を尊重し合うために、地域住民の理解を得る事</p> <p>・多様性を受け入れられる場の数を増やす事</p> <p>・長く活動していた団体が解散した後の支援の滞り</p> <p>・行政が活動団体にまかせきりで消極的である点</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>不登校・引きこもりになった子どもの学習・引き出し支援80%、子育て悩みサロンの参加者の満足度4以上(5段階評価)85%</p> <p>を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>サロンをきっかけに集まった学生が、自主活動として多様性を考える会を開催。学校の制服の男女差の自由化など、人権を認めてほしいといった内容を含む署名活動を始めた。</p>